

新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成29年度実績

平成30年7月

福岡県新宮町

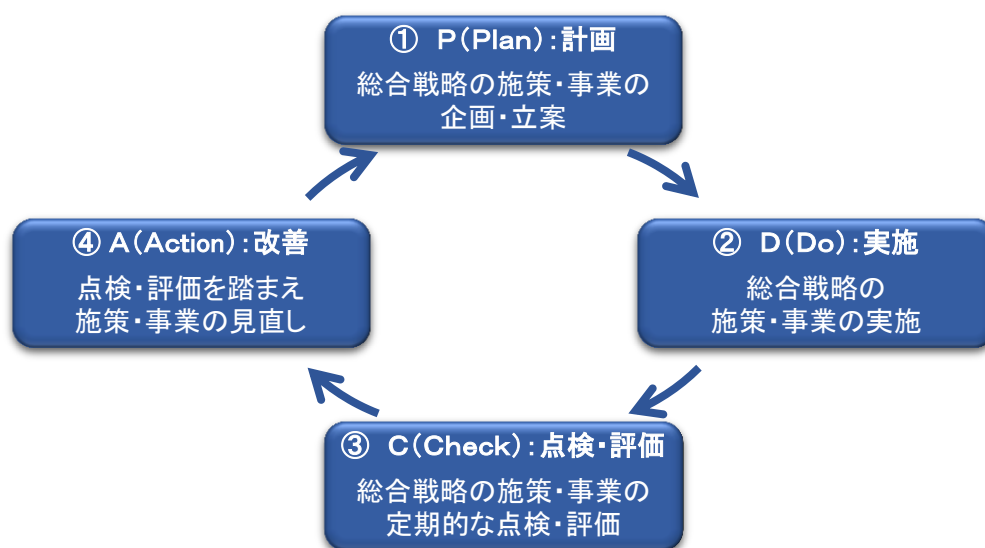
## はじめに

### 1. 総合戦略の位置づけ

新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「新宮町総合戦略」という）は、新宮町人口ビジョンにおいて提示する将来展望を踏まえ、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条の規定により、新宮町における「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」に一体的に取り組むため、平成 27（2015）年度を初年度とする今後 5 か年（平成 31（2019）年度まで）の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

### 2. 施策検証について

国の総合戦略における政策 4 分野ごとに設定した数値目標や国の各政策分野の具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標（目標値）を基に、実施した施策・事業の効果を外部有識者などの参画により検証し、必要に応じて新宮町総合戦略の改訂を行うことにより、PDCA サイクルを確立し、適切な進行管理を行うこととしています。



※PDCA サイクルとは、Plan(計画)、Do(実施)、Check(点検・評価)、Action(改善)のプロセスを実施し、最後の改善(A)では評価(C)の結果から、最初の計画(P)の内容を継続・修正・破棄のいずれかにして、次回の計画(P)に結びつける。このらせん状のプロセスを繰り返すことにより、品質の維持・向上および継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法のことである。

## 基本目標ごとの施策検証

### <基本目標1>仕事をつくり経済を活性化する

#### (方向性)

本町の総合戦略では、立地条件や労働力などの強みを活かし、課題を克服することにより、新たな企業誘致を推進していくとともに、既存の企業や商店のPRや育成にも取り組んでいきます。また、農林漁業については、豊かな自然資源を活かしながら新宮町ならではの支援を行うことで、地域産業の育成を図っていきます。

地域産業の育成・活性化により、町内に雇用を創出し、町外からの新たな人の流れを生み出すことで、「しごと」と「ひと」の好循環を創り、持続可能な「まち」の活性化を図っていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
町内事業所数	1,190 事業所	1,231 事業所	—	1,250 事業所	—

※総務省「経済センサス」より  
平成29年度は「経済センサス」未実施のためデータなし

#### 施策－1 企業誘致による雇用促進

本町の交通便利性など好立地の環境を活かした製造業、流通業務施設、商業施設などの誘致や立地を積極的に推進するとともに、誘致や立地に必要な環境づくりに努めます。

##### ① 平成29年度取り組みの概要

- ・新宮町に対する企業の進出意欲が高く、積極的な企業進出がありました。

##### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
従業員50人以上の企業誘致数	—	4件	4件 (±0件)	6件	66.7%
9m以上の町道の整備延長	—	397.5m	411.5m (+14.0m)	1,160m	35.5%

## 施策－２ 農業振興による活性化

本町の特性を活かした農業環境を充実させ、農業の活性化に取り組むため、付加価値の高い特産品などの開発や頑張る農業者の育成・支援に努めます。また、荒廃農地などの利用促進を図るため、未利用農地の活用とともに、新たな担い手などの育成に努めます。さらに、これからの学校給食の実態を踏まえ、地元食材の活用などの検討に努めます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・認定農業者の高齢化により課題は継続しております。
- ・湊地区で機械利用組合が設立されたため、耕作放棄地等の減少が期待されます。
- ・ひとまるの里の売上は、来客数が減ったことにより減少しております。

### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
認定農業者の人数	26 人	25 人	25 人 (±0 人)	30 人	-25.0%
集約した農地面積	—	—	—	10ha	—
ひとまるの里の売上高	285,000 千円/年	289,284 千円/年	269,840 千円/年	300,000 千円/年	-101.1%

## 施策－３ 水産業の振興による活性化

漁業経営の安定化を目指しつつ、漁業者のやる気や新しい漁業へのチャレンジを促進するため、漁協や漁業従事者との検討協議を進めながら、新たな漁業や直販などを検討し進めるとともに、漁業の担い手の育成・支援にも努めていきます。また、養殖事業を促進します。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・直販事業（いけま売り等）は平成 29 年度から相島若潮の会から新宮相島漁協へ実施主体が変わりました。また、チラシの印刷・配布や新宮中央駅構内に横断幕の掲示などの支援等を継続して行い推進しました。
- ・いけま売りを契機に、相島の魚の販売ルートは、新宮町及び筑紫野市に所在するスーパーマーケットへ拡大しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
直販事業の回数	2回/年	5回/年	5回/年	5回/年	100%

## 施策－4 商工業の振興による活性化

本町の好立地を活かした企業の誘致や消費拡大を図るとともに、商工会との連携を図りながら、既存商店の魅力づくりや新規店舗との共存・共栄できる関係づくり、企業PRや新規起業への支援などを検討し進めていきます。また、町内製品のPRや特産品開発を進めていきます。

### ① 平成29年度取り組みの概要

- ・ブランド開発（商品開発）」では、「新GOOD」ブランド展開として「みかんアイス」や「みかんサイダー」、「ねこサイダー」などの商品販売を行いました。あわせて、ふるさと納税返礼品として、新たにアコヤ貝の貝柱を使用した「奇跡の真珠」及び「無着色辛子明太子 立花」を揃えました。
- ・創業（起業）者数を増やすために、糟屋地区4町とその商工会と連携して創業塾を開催しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
ブランド開発の数	－	－	6つ	5つ	120%
創業（起業）者数	－	1件	1件	5件	20%

## ＜基本目標2＞地域への新しいひとの流れをつくる

### (方向性)

地域ごとに異なる課題に対応するため、それぞれの特性を踏まえた計画づくりを進めて、人口減少地域への定住化を図るとともに、転入者である若い世帯との交流など様々な交流の場づくりを含め、新しい人の流れを生み継続させる仕組みや環境づくりを検討し進めていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注2</sup>
東部地域・相島の人口	985人	947人 (-38人)	984人 (-1人)	985人	-0.1%

※「住基人口(毎年3.31)」より

### 施策－1 定住化の推進と空き家など有効利用の推進

本町では、JR 新宮中央駅周辺の住宅開発が進み、若い世代を中心に急激な人口増加が続いている一方、東部地域や相島のように人口が減少している地区もあります。このため、各地域の特性を活かしつつ、若い世代が住むことに魅力を感じる環境づくりを検討するとともに、特に人口減少のみられる地域においては、移住や定住につながるための仕組みを検討し推進していきます。また、空き家も増えてきているため、空き家や古民家の有効利用について取り組んでいきます。

#### ① 平成29年度取り組みの概要

- ・東部地域・相島地区の新規定住世帯数は、主に立花口区の住宅地開発に伴う転入により増加しました。
- ・古民家の利用は、立花口地区の古民家の購入について検討を行いました。
- ・相島地区の空き家調査を相島活性化協議会で行い、軽微な修繕で利用可能と思われる3件の空き家について所有者の意向を調査しました。併せて、空き家バンク設立に向けて、町内の不動産業者と調整を行いました。
- ・歩道・通学路の整備では、街灯のLED化などを実施しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
立花口・的野地区 の新規定住世帯数	—	17 世帯	82 世帯 (+65 世帯)	40 世帯	205.0%
相島の新規定住世帯数	—	4 世帯	6 世帯 (2 世帯)	5 世帯	120.0%
空き家バンクへの 登録件数	—	—	—	10 件	—
古民家の利用件数	—	—	—	2 件	—
歩道・通学路の整備延長	—	2,715m	3,352m (+637m)	1,547m	216.7%

## 施策－2 交流の拠点づくりの推進

人口が減少している地域においては、観光や地域の特産品を活用するなど、地域内外の人々との交流機会を増やしていくことが重要と考えます。そのため、地域住民との協働により、交流施設の整備をはじめ地域資源の確保や人材の活用などを検討し進めていきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・的野では、道路拡幅計画にあわせて、交流拠点の検討を行いました。
- ・立花口では、古民家を利用した T A P の拠点整備の検討を行いました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
交流拠点となる施設の整備数	—	1 件	1 件 (±0 件)	8 件	12.5%

## 施策－3 観光の拠点

商工会、農協、漁協などの関係団体とおもてなし協会が連携し、新たに開発された特産品や地元産品の販売などを通して観光 PR を進めます。また、新宮町おもてなし協会が中心となり、町内の自然、文化、産業などの資源や地域で活躍する人材を活用した観光イベントなどの実施を支援していきます。さらに、周辺市町と観光情報の発信やイベントを共催し、地元企業や町内活動団体との連携による体験型のイベントを支援します。

### ①平成 29 年度取り組みの概要

- ・広域連携によるイベントは、「宗像・糟屋北部地域広域連携プロジェクト推進会議（しこふむ）」で Food EXPO Kyushu2017 や立花山間千代ウォーキングなどを連携して実施しました。

### ②目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
広域連携によるイベント数	3つ	5つ	5つ	5つ	100.0%
観光イベント（新宮劇場）の参加者数	213人	676人	854人	1,000人	81.4%
観光(名所・旧跡)ガイドの人数	5人	5人	5人	10人	0.0%
観光施設の設置数	—	2件	2件 (±0件)	4件	50.0%



## ＜基本目標3＞若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### (方向性)

人口の好循環を維持していくためには、町民が、安心して結婚し、子どもを生き育てられる社会環境の醸成に取り組む必要があります。そのため、若い世代の経済的安定を図るとともに、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援や、子ども・子育て支援の充実を図っていきます。また、女性が働きながら安心して妊娠・出産・子育てができ、男性も積極的に家事や育児を行うことができるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を図ります。

数値目標	基準値 (H24)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
合計特殊出生率	1.8	1.7	1.7	1.9	-100.0%

※「母生年月日・子生年月日・出生数」、年齢別人口集計表より

### 施策－1 妊娠から乳児期の支援の充実

子育てに伴う精神的、経済的な負担から、妊娠を避けたり、一人っ子の家庭が増えていきます。妊娠から乳児期の親の負担軽減を図るため、安心して出産し、子育てができるよう、妊婦、乳児の健康状態の把握から必要な相談・指導を行うことができる体制を構築していきます。

#### ① 平成29年度取り組みの概要

- ・乳児家庭への訪問は、職員だけでなく在宅助産師への委託を行い、実施しています。
- ・長期里帰りに伴い乳児家庭へ訪問できないなどの理由で乳児家庭への訪問率は低下しましたが、把握率はほぼ100%となっています。また、長期里帰り中の場合は、当該市町村に依頼し、乳児訪問を実施しています。
- ・マタニティスクールでは社会教育課と協働で、絵本講話を実施しました。

#### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
乳児家庭への訪問率	93.4%	97.9%	94.7%	98%	28.3%
4か月児健診の受診率	95.9%	100%	98.3%	98%	114.3%
マタニティスクール参加者数	78人	99人	140人	100人	281.8%

## 施策－２ 幼児期の子育て支援の充実

共働き世帯やひとり親家庭の増加など、新たな幼児教育・保育ニーズに的確に対応するとともに、就学前の子どもたちの健やかな成長と良好な子育て環境を充実していきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・年少人口の増加により、待機児童数及びかんがる一広場利用者数も増加しました。
- ・地域子育てサロンは後継者不足により中止が生じ、実施箇所が減りました。

### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
待機児童数	45 人	15 人	36 人	0 人	20.0%
かんがる一広場の利用者数	6,445 人	8,550 人	13,910 人	8,000 人	480.1%
ファミリーサポートの会員数	—	225 人	259 人	300 人	86.3%
地域子育てサロン実施箇所数	7 箇所	10 箇所	7 箇所	12 箇所	0.0%

## 施策－３ 義務教育期間の子育て支援の充実

教育・学童保育に関する保護者のニーズを的確に把握しながら、教育・学童保育環境を向上させていくとともに、子育てに関する情報共有や悩みを解決するため、地域での子育てを支援します。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・通学合宿は小中学生が 121 人参加しました。
- ・夏休み地域寺子屋事業は 19 行政区 80 日間で延べ 1,749 人参加しました。
- ・夏休み地域寺子屋事業のボランティアは、社会教育関係団体へ研修することで、理解が得られてきている。平成 29 年度のテーマは「他世代が交流し互いにつながる地域づくり～子どもの居場所づくりと地域の関わり～」で研修を実施しました。
- ・コミュニティ・スクールは、新宮北小学校を新たに指定しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
学童保育所（放課後児童クラブ）数	6 か所	9 か所	9 か所	9 か所	100.0%
通学合宿の実施箇所数	4 か所	7 か所	7 か所	7 か所	100.0%
夏休み地域寺子屋事業の実施箇所数	10 か所	15 か所	19 か所	15 か所	180.0%
コミュニティ・スクールの数	5 校	5 校	6 校	6 校	100.0%

## 施策－４ 男女がともに参画し、支えあう環境づくり

企業や事業所への育児休業や介護休業の取得しやすい職場づくりを目指し、ワーク・ライフ・バランスの促進に向けた啓発活動を進めていきます。

また、女性が仕事と家庭の両立ができるよう、男性への家庭責任の意識向上を図るとともに、積極的な育児参加への取組を促進します。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・ 県が実施する関連事業のチラシなどを役場庁舎に配架するなど情報提供に努めました。
- ・ 男女共同参画に関する企業・事業所意識調査を実施しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
町広報誌・町ホームページへの掲載回数	—	2 回／年	2 回／年	2 回／年	100.0%
講演会などの実施回数	—	—	—	1 回／年	—
パパママ教室の参加者数	84 人	78 人	70 人	120 人	-38.9%

## ＜基本目標4＞時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

（方向性）

急速な人口増加により、都市構造が大幅に変化している中で、各地域の実情に即した新しいコミュニティづくりを進めていくとともに、人口減少が進む地域においては、地域振興策の推進により、地域の魅力を高めていくことで、町民が将来にわたって安全・安心で豊かな生活を営むことができる町を構築していきます。

数値目標	基準値 (H27)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
自治会加入世帯率	85.6%	83.3%	87.7%	90%	47.7%

※自治会調査及び年度末行政区世帯数より

### 施策－1 地域振興策の推進

地域住民との協働により策定した将来構想や個別の課題に基づき、ルールづくりや具体的な振興策の検討を進め計画的に事業を推進していきます。特に地域住民の理解や協力が不可欠なことから、今後も住民との懇談・協議を継続し地域の合意形成を高めるとともに、大学などとの連携により可能な取り組みから進めていきます。

#### ① 平成29年度取り組みの概要

- ・東部地域の交流拠点整備は、的野区においては、道路拡幅に伴う交流拠点整備について、立花口地区において古民家の活用などについて九産大及び各地域の活動団体と連携して検討しました。
- ・相島地区の各団体代表者による相島活性化協議会を発足し、相島活性化に向けた今後の指針として「相島を元気にする28の取り組み～相島活性化プラン～」をとりまとめる中で、古民家の利用や購買店のリニューアルなどによる交流拠点の検討を行いました。

#### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
東部地域の交流拠点の整備数	—	—	—	4件	—
相島振興に係る交流拠点整備数	—	1件	1件	2件	50.0%
相島への来島者数	63,000人	65,000人	77,000人	66,000人	466.7%

## 施策－２ コミュニティの振興

今後のまちづくりを進めるにあたり、新興住宅地区や高齢化の進む地区など地域の特性を踏まえたコミュニティのあり方について検討し取り組んでいきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・寺子屋事業や通学合宿等は、地域の地域ボランティアの他に、福岡工業大学や福岡教育大学の学生ボランティアなどとも調整を行うなどの支援を行いました。
- ・寺子屋事業には述べ 671 人、通学合宿事業に 521 人のボランティアが参加しました。

### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
地域コミュニティ活動（夏休み地域寺子屋事業、通学合宿など）への支援者数	150 人	614 人	1,192 人	200 人	2084.0%

## 施策－３ 防災・防犯対策の充実

近年の局地的集中豪雨など大規模な自然災害の発生を踏まえ、災害に強いまちづくりを行うため、地域防災計画や防災マップ（ハザードマップ）を適宜見直し、住民の安全確保や支援に取り組んでいきます。また、定期的な防災訓練や防犯活動などを支援するとともに、防災・防犯に対応する体制づくりや施設の整備・改修を計画的に実施していきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・防災専門官による専門講座により自主防災組織設立の啓発や活動支援を実施しました。
- ・災害時備蓄物資は、福岡県災害備蓄計画に基づいて、順次配備を行っています。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
自主防災組織の数	3 行政区	6 行政区	7 行政区	10 行政区	57.1%
防災訓練の参加者数	200 人	370 人	592 人	1,000 人	49.0%
災害時備蓄物資の量	75 人分	225 人分	300 人分	450 人分	60.0%
自主防犯団体の組織数	4 団体	4 団体	4 団体	6 団体	0.0%
既設防犯灯の LED への更新数	90 基	164 基	370 基	850 基	36.8%

## 施策－4 自然環境の保全

地域住民、関係団体、行政などの協働による保全活動を積極的に推進していくとともに、自然環境を活用した環境整備を検討し推進します。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・新宮海岸クリーン作戦は、毎年 4 月 29 日に実施が定着しており、継続して実施します。
- ・松林ボランティア活動は、筑前新宮に白砂青松を取り戻す会の活動を「勤マルの日」などの取り組みで支援しました。
- ・立花山ボランティア活動参加者は、立花山観光協会の活動を支援しました。
- ・森林ボランティアは、TAP が実施している竹林対策を支援しました。

## ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
新宮海岸クリーン作戦参加者数	900 人	1,200 人	1,200 人	1,300 人	75.0%
松林ボランティア活動参加者数	100 人	70 人	120 人	200 人	20.0%
立花山ボランティア活動の参加者数	40 人	34 人	18 人	100 人	-36.7%
森林ボランティア人数	—	30 人	27 人	40 人	67.5%

## 施策－５ コミュニティバスの充実

地域住民のニーズを踏まえながら、路線などの見直しを行うとともに、安定した経営を行うため、乗降客の増加などにつながるような対策を進めていきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・コミュニティバス利用者数については、乗客が多い時間帯に増便を行うなど利用者ニーズを反映させ、利便性の向上を行いました。また、新宮町おもてなし協会がイベント時に積極的に利用し、利用者数の増に貢献しました。

### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
コミュニティバス利用者数	19.6 万人	19.6 万人	21.6 万人	20 万人	500.0%

## 施策－６ 渡船の充実

利用者のニーズを踏まえながら、運航時刻などの見直しを行うとともに、安全な運航を最優先に進めていきます。

### ① 平成 29 年度取り組みの概要

- ・渡船の利用者数については、休日など来島者が多い日は、臨時便を運航するなど臨機応変に対応を行いました。

### ② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	目標値 (H31)	進捗率 <sup>注1</sup>
渡船の利用者数	105,000 人	128,000 人	153,000 人	110,000 人	960.0%

注1：進捗率の計算方法については、平成31(2019)年度の目標値と平成26(2014)年度の基準値の差からどの程度の増減があったかを示しています。計算式としては次のとおりです。

$$\text{進捗率(\%)} = \frac{(\text{現在値} - \text{基準値})}{(\text{目標値} - \text{基準値})} \times 100$$

注2：分母が0の割合は計算できないため、現在値の目標値に対する割合を進捗率としています。